北の中世を旅する…

「海の道」の贈り物。

海の道"日本海"は古い時代から
さまざまなモノ、ヒト、コト(情報)をもたらし、
地域の生活文化を育んできました。
北から南から流入した"海の道"のさまざまな贈り物は
時代を超え、いま静かに、そして確かに
見直されようとしています。

上之国館跡 勝山館跡

夷王山・夷王山墳墓群

標高159mの山頂には勝山館を築いた武田信広を祀る夷王山神社がある。山頂に上ると、中世の頃、賑わいを見せた天の川河口、大澗湾が眼下に一望できる。

山裾から勝山館後方部一帯には、勝山館に居住していた人々の火葬墓や土葬墓が600基余分布している。この中にはアイヌの人たちの墓もあり、和人とアイヌの混住説も唱えられている。(国指定史跡)

上國寺本堂

松前藩初代の松前慶広が祖先の武田信広を弔うために開創したと伝えられる。開創年代は江戸時代の文献で永禄年間（1558～1570）としている。現存する建物は内陣天井支輪の墨書に宝暦八寅年（1758）とあり、虹梁の絵様など細部の様式からこの頃の建築と考えられる。虹梁の多用等、浄土宗本堂として発展した形を良く示し、窓等の開閉部を少なくする等寒冷地建築としての工夫も見られる。本道における18世紀に遡る数少ない仏堂建築として貴重である。（国重要文化財）

上ノ國八幡宮本殿

文明5年（1473）武田信広が勝山館内に館神として創立したと伝えられる。夷王山神社、砂館神社とともに、上ノ国三社の一つとして歴代の松前藩主の一代一参、毎年正月の藩主名代の参拝があったと伝えられる。近年の調査で梁などの文様、建築様式や松前藩の記録から元禄12年（1699）の建築であることが判明した。本道最古に属する。

明治9年現在地に本殿が移され、伝説大蔵鰊の若宮社を合祀した。松前氏13代道廣、14代章広の書が伝えられている。（町指定有形文化財）

砂館神社本殿

創建の縁起は本道最古の記録「新羅之記録」によると、寛正3年（1462）古櫃の浜に漂着したという毘沙門天王像を祀ったのがはじまりといわれている。その後安永7年（1778）火事で消失したため、松前氏13代道廣により再建されている。上ノ国三社の一つである。（道指定有形文化財）

上之国館跡 花沢館跡

長禄元年（1457）のコシャマインの戦いの際に茂別館とともに固く守り屈しなかった館。近年の調査で15世紀代の陶磁器とともに当時の土塁や空堀、柵が確認されている。（国指定史跡）

上之国館跡 洲崎館跡

コシャマインの戦いに勝利した武田信広は蛎崎季繁の後継ぎとなり、建国の大礼を行ない、この館に移り住んだと伝えられる。しかし近年の調査でコシャマインの戦い以前の中世の陶磁器等も出土しており、今後の本格的な発掘調査に待つところが多い。（国指定史跡）